

阪神大震災 20年

阪神淡路大震災から20年が経過し、人口に關しては震災前の水準を上回ったものの、経済的には今もまだ復興途上にあります。神戸



料理をサーブする総支配人の檜山さん

ホテルラ・スイート神戸ハーバーランド

かつての元気な経済を取り戻すべく神戸市が立ち上げた「ウォーターフロント事業計画」の事業用地コンペで、神戸経済をけん引する旗印となるべく選ばれたのが私たちの「ホテル ラ・スイート神戸ハーバーランド」です。20

し直前に引越しいなかつたら命を落とすことになつていたかもしれないことに気が付き、自分は生かされていると悟りました。一方で、当時、サービスの統括責任者として勤務していたフランス三つ星レストランの支店は撤退。多

で参加したところ、最優秀賞を受けました。これをきっかけに、「全日本メイトル・ド・テル連盟」を設立。かつての神戸にあった華やかなフランス料理の文化や、先輩方から受け継いだ知識や技能を、これからのフランス料理界の

1800人以上となり。だからこそ「かつての元気の神戸のウォーターフロントを取り戻す」という大きな使命を背負ったホテルから総支配人としてのお誘いをいただいた時は、神戸への恩返しができる」と運命を感じたので

応援し、農畜産漁業に従事する若者を応援して地域の活性化を図ることなどで、食材に關わった全ての方々の笑顔を目指し、我々はこの活動を「地産地笑」と呼んでいます。また「デザイン都市・神戸」の取り組みに共感し、地元の若手アーティストを無償でバックアップするプロジェクトを展開したり、「ジャズの街・神戸」のミュージシャン応援のため、ホテル内のラウンジでの演奏に若手を積極的に起用するなどの活動もしています。

「大好きな街・神戸」に恩返し

08年の開業の背景にはそういうストーリーがあります。そして、そのラ・スイートと私を結びつけたのも、震災でした。

くの同僚が東京や他の都市へと転職する中、私はこれまで育ててくれた大好きな神戸の街にどうすれば恩返しができるのかを常に考えるようになってきました。

サービスの担う後輩たちに伝承するようになり。指導してきたサービスのプロは

ホテルとして、日本国内外へ神戸の名前を広め続けていこうと活動を続けています。食については、兵庫県を構成する旧五

そうして神戸の名を世に広く伝えることで、一度神戸に來ていただいたお客様に再びお戻りいただく―それが我々の震災復興のための使命だと、全スタッフが心に秘め、今日もお客様をお迎えしています。

震災当時の自宅は神戸市兵庫区のマンションで、前年に買い替えて新生活が始まった直後でした。幸いにも私たち家族4人は無事でしたが、も

震災の翌年、レストランのサービス技能を競う「第一回日本メイトル・ド・テルコンクール」に武者修行のつもり

神戸の元気なウォーターフロントを取り戻す使命を持つホテル

地産地消を実践しています。各食材の生産者の思いや苦勞を理解し、食材を恵んでくれた大地や生産者の方々に最大の敬意を払って引き出したおいしさをテーブルにお届けすることを常に心がけています。県内の生産者を

今後とも大好きな神戸の街を自分のできることを通して魅力的な街にしていきたい、また、そういった人材を育てていきたいと思えます。

こんなホテルです

2008年11月に開業した、神戸・ハーバーランドの海沿いに立地するホテルで、全室オーシャンビューのテラス付き。「ミシユランガイド関西2015」では5

HOTEL
LA SUITE KOBE
HARBORLAND



年連続神戸最高評価を獲得。世界のトップホテルだけが加盟できるSLH (スモール・ラグジュアリー・ホテルズ・オブ・ザ・ワールド) に日本のホテルとして初めて加盟した。



神戸の元気なウォーターフロントを取り戻す使命を持つホテル

今後は広報担当ではなく、ホテルのトップによるお話です。



今回は広報担当ではなく、ホテルのトップによるお話です。

総支配人 檜山和司

兵庫の会社

はい、



広報です!